

ギリアムを思い起こします。英 国的、というラインの話をする、チャレンジャー号にせよテラノバ遠征にせよ、世界中のあちこちに船で征つては動植物を採取してくる旅なわけです。日本からも日本海にいたアシカだの、江ノ島沖のタラだのを採取している。採取、言い方を変えれば略奪です。略奪って、相手のことを未開のものだという認識がなければ出来んわけです。文明国同士だったら侵略になっちゃう。文明がないから、人よりも劣っているからこれは略奪ではなく、採取である。

ただ、そういう姿勢でないたと探検家だの自然科学が発展していかなかったのも確かな話で、科学の歴史そのものが「自然」の全てを人間の管理下に置くのが最終的な目的だと思ふのです。山火事も原子力も地震も、しいては気候や地殻変動さえもコントロール出来ないものか。そもそも姿勢がそうでないと、こういうところに時間と予算を突っ込まない。結果として「自然との共生」あたりに解を得るんでしょうが、それだつて自然と肩を並べて共に生

きる、というのは日本的な発想には無いと思ふんです。生かされている、荒れた時にはどうにか鎮まってもらう。人ならぬ領分に踏み入らない、と言ひ換えてもいいでしょう。自然科学が人間の好奇心よりの方向性を持って発展したとしたら、畏怖心を以てことに当たる。

ま あそれはさておき、145年前に日本海から拉致されていったアシカが、いまだに相当きれいな状態で剥製として保存されている。ようわからん船に拐われて不幸でした。145年も肉体は残り続ける。なんちゅう海驢生じやろうか。レーニンとか金日成の遺体もこのくらいキレイに残つとるんじやろうか。

と まれ、まだまだ人間にとつてはまったく未知の領域だった地球を探索する試み。命の危険はあったものの、きつと楽しかったことでしょう。行けども行けども見知らぬ世界というのは本当に楽しかったはず。なんでも黎明期というのはそういういたものだと思ひます。で、ある程度勝手がわかってくるとマニアックになって

くるんですわね。前提となる知識がたーんと入り用で、細かい差異にのみ新しさを見いだせる状況。こうなると専門家が丁寧に取り扱わないと立ち行かなくなつていって、一般客が遠ざかる。この辺の歯痒さをなんとか言葉にしたい。

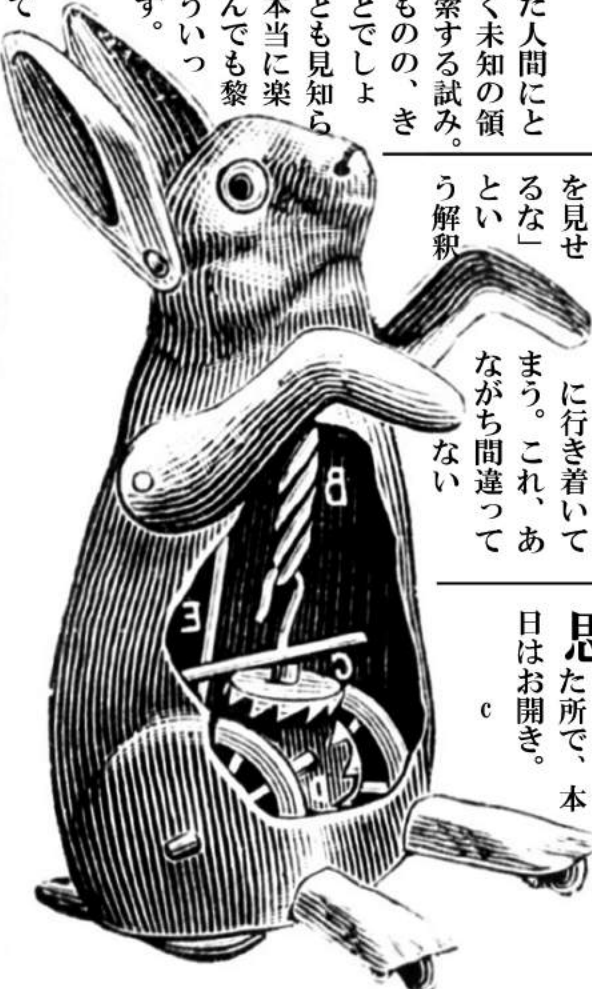
例 えば、ネットで政治を話題にしよう、という時に必ずこの「前提となる知識が共有できない」と建設的にならない」ってあるじゃない。まともに該当する問題取り組んできた方々からすると「その問題を語るためにはコレとコレを抑えておけ」てな言い方をしたくなる。で、云われた側が「勉強しろってことは、自分と同じ意見になるまで顔を見せに行き着いてるな」

まう。これ、あながち間違つてない

んです。「正しい資料と論理的思考に基けば必ず私と同じ意見になる」って云つてると同じだものね。その辺、ネットなんざ衆愚でいいんだと思ひます。前提となる知識や環境が違う人達が同じサラダボウルに放り込まれてまともな議論になるはずがないんです。ツイッターなんぞで政治を取り扱うなんぞ、こんな馬鹿なことではない。その証左として、この冒険と知性というのが愉しみの軸としては両極にあるからだ、という指摘はもつと成されていいんじゃないかと思ひます。同じ考えの者同士徒党を組むのは好きにしたらいいけど……。

思 いた所で、本日はお開き。

う解釈



バックナンバーはこちら
弊紙「ペラ式アタリ」のバックナンバーはウェブサイトを
<http://sew.web.fc2.com/atari/>
からご覧いただけます。

おしらせ

長かった真打披露興行(3)5月)もGWを挟んで国立演芸場を残すのみとなりました。だいたいの不幸にもスケジュールがかぶつて行けていませんですが、11日か17日には行つておきたいところですよ。

落語に津軽三味線と賑やかな二刀流の活躍、みなさん寄席に足をお運びください。



北海道は恵庭市の話になりませんが、林家扇、柳家やなぎ、柳亭市童の三人会「三匹のこぶたち」in ENIWA が7月1日(土)午後2時開演。12月には札幌公演もあるそーですので、近所の方は是非。

